

(様式第2号)

福祉サービス第三者評価結果報告書

1. 評価機関

名 称	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山県岡山市岩井二丁目2-18
評価実施期間	平成19年11月16日 ~ 平成20年12月6日

2. 事業者情報

事業所名称：ワークスひるぜん (施設名)	サービス種別： 知的障害者授産施設		
管理者氏名：長尾伸二	開設年月日：平成17年4月1日		
設置主体：社会福祉法人蒜山慶光園	代表者 職 氏名：理事長 板原克介		
経営主体：社会福祉法人蒜山慶光園	代表者 職 氏名：理事長 板原克介		
定員：20人	利用人数：21人(11月1日現在)		
所在地：〒717-0505 岡山県真庭市蒜山上長田2300-1			
連絡先電話番号：0867-66-7750	FAX 番号：0867-66-7760		
ホームページアドレス： http://www.hiruzen-keikoen.com/	E-mail： works2005@tiara.ocn.ne.jp		
サービス内容(事業内容)			
利用者の経済的自立を保障することを大きな目標に、製麺、弁当作り、農作業、室内作業、職場実習に取り組んでいる。			
居室の概要	居室以外の施設設備の概要		
	作業室1、食堂1、相談室1、医務室1、更衣室2、シャワー室2、便所2、車椅子用便所1 厨房1、事務室1、会議室1		
職員の配置(11月1日現在)			
職種	人数	職種	人数
管理者	1	医師	1(嘱託)
生活支援員	1		
作業指導員	3		
調理員	1		
事務員	1		

3. 評価結果総評

特に評価の高い点

理念や基本方針などはよく行き届いており、授産施設としての機能が発揮されている。比較的自立度の高い知的障害者が多く、厳しい環境の中でも利用者と職員が明るく自由な雰囲気の中で生活している施設であることが感じられ、利用者も意欲を持って真剣に作業に取り組んでいる。

改善を求められる点

利用者の意欲で素晴らしい環境となっているが、成果を出すためにも中・長期計画の今後の策定を期待したい。また、施設もまだ新しく特別な改善点は見当たらないが、ハード面から見て、製麺班の入口の段差の改善や、喫煙所の灰皿の設置等細かい場所の改善を検討されてはいかがでしょうか。

4. 第三者評価結果に対する事業者のコメント

我々にとって利害関係者以外の評価を受けることははじめてでしたが、統一された基準による第三者の評価を受けることは、自らの事業を客観的に捉える良い機会になったと思います。今後も定期的に続けていきたいと考えます。

全体として意欲の面では良好な評価をいただいた反面、マニュアル化や文書化が進んでいないという事業の弱点を改めて認識しました。

その他ももっともな指摘で、改善に向けて具体的に取り組んでいきますが、現在のような情勢の中では中・長期の計画作りは難題で、現在は1年単位の短期計画しか立てられておりません。福祉を取り巻く制度の見通しがもてたときに中・長期計画が立てられると考えています。

理念の実現のための材料がたくさん指摘されました。この指摘を具体的に改善し、理念を実現する道のりを進んでいきたいと思えます。

5 . 評価文類別評価内容

<p>評価対象</p> <p>1 理念・基本方針</p>	<p>理念・基本方針は明文化されているが、福祉制度が変化する為中・長期計画は現在策定されていない。情報収集の勉強会には積極的に参加し、経営環境の変化に対応している。</p> <p>法人全体で利用者や家族等にスライド等を使用し、より理解しやすいよう工夫を行っている。</p>
<p>2 計画の策定</p>	<p>社会の動向、組織の状況、利用者や地域のニーズ等の変化を把握して必要に応じて、見直しを行っている。制度が安定するしないは別として、中・長期計画の策定を期待したい。</p>
<p>3 管理者の責任とリーダーシップ</p>	<p>文書化までは出来ていないが、管理者自ら各種の勉強会に参加し必要に応じて、担当職員を受講させ、月1回PDCAサイクルの取り組みで質の向上を高める等、経営の効率化に取り組んでいる。</p>
<p>評価対象</p> <p>1 経営状況の把握</p>	<p>市の委託を受けた相談窓口、デイセンターまにわたりの連携で情報データを収集把握し、公認会計士による指導や指摘に基づいて経営状況や改善すべき課題について職員への周知を図っている。</p>
<p>2 人材の確保・養成</p>	<p>法人全体の人員体制について月2回、幹部会議で方針が確立しているが、評価基準等の職員への開示は行われていない。職員の就業状況に関するデータを定期的にチェックし、福利厚生センターへの加入など福祉厚生事業への取り組みもなされている。職員の教育・研修に関する基本姿勢は明示されていないが専門資格修得の際には、初回に限り、1週間の有給休暇の配慮がなされている。</p> <p>新しい技法や様々な実践の成果についての情報収集は外部から講師を招くなど、年1~2回知識・技術の導入に努めているが、個別の職員に対しての教育、研修計画が策定されていない。</p>
<p>3 安全管理</p>	<p>管理者自ら防火管理資格を取りリーダーシップを発揮している。外で日中の作業が多く、比較的自立度の高い入所者が多く、管理体制のマニュアル化迄は出来ていない。</p> <p>今後の事を踏まえ施設に合ったマニュアルの作成を望む。</p>

<p>4 地域との交流と連携</p>	<p>田舎の為ほとんどの人が顔見知りで、集落の行事等が有れば、気楽に声掛け参加している。又、法人全体での福祉講演会を開催し、地域との理解を深めているが、地域との関わり方についての文書化までは出来ていない。</p> <p>ボランティア受入れに関しては、施設がその必要性を感じていない為、ボランティア育成に取り組んでいない。自立支援協議会の組織に参加し、具体的な福祉ニーズの把握に努め、地域住民の相談を受入れているが、事業計画迄には至っていない。</p>
<p>評価対象</p> <p>1 利用者本位の福祉サービス</p>	<p>利用者満足向上のための取り組みとして、毎月給料日には利用者に話を聞いているが、利用者満足向上を目指す姿勢を明示して、どの職員でも利用者の意見にどのような対応をするかということのマニュアル化を図り、日々提供するサービスの質を向上させる必要がある。</p>
<p>2 サービスの質の確保</p>	<p>サービスの質の向上に向けては大いに意欲を感じられる。しかし、評価結果や課題に対する改善策、改善計画の分析は行っているが、文書化迄には至っていない。また、個々のサービスの標準的な実施方法等も文書化迄には至っていないので、施設に合った規定文書を作成されることが望ましい。</p> <p>利用者情報の共有化については、グループ内 LAN 等で施設内だけではなく、部門外での閲覧もでき、情報を有効に利用・共有できていると思われる。</p>
<p>3 サービスの開始・継続</p>	<p>理念や実施するサービスの内容を紹介した資料を公共施設等、多数の人が手にできる場所へ置くなど、受動的ではなく積極的に情報提供することが望まれる。</p> <p>サービス開始時の同意を得るにあたり、説明と定められた様式により分かり易く進められている。現状では実例がないようであるが、サービスが終了した時、ほかの施設や家族への移行をする時のため、引継ぎ文書や手順を明確にし、文書化されることが望ましい。</p>
<p>4 サービス実施計画の策定</p>	<p>アセスメントは、利用者の身体状況や、行動の特徴を把握し記録されて、毎月見直しがされている。</p> <p>サービス実施計画の責任者も明確で、月次報告書で実際に機能している事が確認できる。</p> <p>今後の課題として、地域生活が身近なものに感じられるよう、情報や資料の作成をされることが望ましい。</p>

<p>評価対象</p> <p>1 日常生活支援サービス</p>	
<p>評価対象</p> <p>1 生活環境の整備</p>	

6 . 評価細目の第三者評価結果（別紙）